

令和5年度第2回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和6年2月28日（水）14時00分から16時10分

2 会場

合人社ウェンディひと・まちプラザ
（広島市まちづくり市民交流プラザ）北棟5階 研修室B

3 出席者

懇談会構成員

団体名・役職	氏名
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩【座長】
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
広島大学平和センター 准教授	ファン デル ドゥース 瑠璃
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	橋村 秀樹
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	畝崎 雅子
広島市経済観光局観光政策部 部長	中田 忠

（計7名、欠席2名）

事務局

広島市経済観光局観光政策部 観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査、主事
広島市市民局国際平和推進部 平和推進課被爆継承担当課長 （計5名）

4 議題

- (1) 令和5年度下期の取組
- (2) 令和6年度の取組（予定）
- (3) その他平和に関わる本市の事業についての情報共有

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会（令和5年度第2回）

8 発言の要旨

【令和5年度下期の取組、令和6年度の取組（予定）について事務局から説明】

（前田委員）

G7広島サミットを契機とした取組のうち、モニターツアーの参加者はインフルエンサー2名、WEB記者が3名ということで良いか。せっかくの取組なのでもっと多くの人に参加してもらえたのではないかな。

(事務局)

前田委員が言われるとおり、インフルエンサー2名、WEB記者3名がモニターツアーに参加した。募集する形でのモニターツアーではなく、情報発信力のある者を招聘するという限定的な形で委託事業により行ったものである。

(前田委員)

海外からのメディアの方を対象にしたモニターツアーを実施したのではなかったか。

(事務局)

海外メディアを対象としたプレスツアーは、広島サミット県民会議等が開催した。プレスツアーの詳細は、広島サミット県民会議が作成した記録誌に記載されている。この度のモニターツアーは、G7広島サミットを契機とした新たな取組として実施したもので、5名程度の参加を想定していた。

(渡部委員)

広島市内の記者の方にもピースツーリズムのコースを知らない方がいらっしゃるのではないかと。地元の方の方々に知ってもらいたいのも大事だと思う。

スタンプラリーは、修学旅行生がグループで広島を歩くのに適していると思う。事前学習を提供し、クイズ形式で街歩きをするシステムはヒットするのではないかと。クイズに答えながら街歩きをすることで、新しい発見があったり、驚きがあったりするのではないかと。

令和6年2月に開業したエディオンピースウイング広島からの人の流れを見てみると、ペDESTリアンデッキから平和記念公園へ歩いて行って、そのまま街中に滞在されている。エディオンピースウイング広島の開業によって人の流れが大きく変わったので、ゲートパークの活用を含め、改めて拠点やコースを考えた方が良いのではないかと。

ピースツーリズムのコースを歩く中で、少し休憩する場所が欲しい。暑い夏は水飲み場を考えていく必要があるのではないかと。

(畷崎委員)

インバウンドの方にとってインスタグラムの影響は私たちが考えているよりもはるかに大きい。現在、ピースツーリズムのインスタグラムは主に日本語で発信していると思うが、どなたか広島在住の外国の方に適宜英語で発信してもらったら良いのではないかと。インスタグラム等オンライン上で情報発信をする必要があるが、その際には是非英語で発信してほしい。

広島は、実際に来ていただいて、原爆ドームを一周してもらうことで、何か感じるものがある場所だと思う。広島を含め日本の記者やインフルエンサーの方にも知ってもらいたい。また、海外のインフルエンサーやWEBメディア、映像関係者の方など、たくさんのメディアの方が広島に来られていると思うので、そういった方向けに特別なツアーを実施したら良いのではないかと。事例をいくつか紹介すると、現在、岐阜県にたくさんの方が来られているが、これは、影響力のある海外の映像関係者がたまたま東京に来ていることを知った岐阜の方が、是非うちにも来てくださいと、岐阜に招待し、そこで撮影した映像が素晴らしかったためである。また、今、インバウンドでよく話題になるのが、ニューヨークタイムズが毎年1月に、行くべき52か所を紹介する中で、去年は盛岡市が2位になった。今年は山口市が3位に入った。そ

れを選んでるのは、日本にいる同じアメリカ人のライターである。日本には、影響力のあるライターの方が住んでおられるので、そういった方に広島に来ていただいて、小さなメディアであっても、情報発信してもらうことで、大きなメディアで取り上げられることに繋がるのではないかと。そういった広島に縁がある方に特別のプログラムを提供するのが良いのではないかと考えた。

(瑠璃委員)

いくつか質問させてほしい。

まず、ピースおこについて、多くのお好み焼屋さんに広がっていけば良いと思っているが、参加しているのは何店舗か教えてほしい。ピースツーリズムのサイトに行くことができるQRコードをチラシに掲載し、参加店舗にそのチラシを配るといった働き掛けができるのではないかと。

次に、PR動画をデジタルサイネージで放映しているとの説明について、実際に広島駅で映像を見ることができた。サイネージの前で、旅行客と思われる人達がじっくり見ている姿を見たが、関心を引く良い広報だ。今のところ銀座のTAUで放映しているとのことだが、このような広島紹介の動画を機内や空港で見せることができれば、非常に知名度を上げるのに効果的だと思うが、そういった取組があるのか教えてほしい。

ピースツーリズムについて、世界各国で平和について関心のある国で映像を流してみてもどうかと思った。たとえば2024年にも、海外でヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展や、その他平和に関する展示会・集会などを行うわけだが、当該国の大使館に対してピースツーリズムの情報を発信する取組がこれまであったかどうか、なければ、今後実施する予定があるか教えてほしい。

モニターツアーについては、人気の高いフォトコンテストと連携することができるのではないかと考えた。作品を応募したら、美しい写真がたくさん出てきた。市民の作品でカレンダーを作るなど、毎年形になる物があれば継続性が生まれて良いのではないかと。また、モニターツアーの参加者を招聘すると経費が掛かるので、参加者人数に限られるとのことだったが、コンペの形を取れば、参加したい人が来てくれるのではないかと。例えば、年に2、3回、文化の日など祝祭日を使って、モニターツアーに参加して写真を撮影するフォトコンテストを開催するなど、招聘の経費が少なくても、市民の皆さんの方から自主的に参加いただく可能性があるかもしれない。呉市の場合は、アニメ「艦隊これくしょん」で回遊型のイベントを開催し、かなり参加者を集めている。いわゆる聖地と言われるところに行くと、写真が撮れる。そして、その写真をネットに上げていく。ファンダムのニーズに応えることで、成功していると聞いた。広島の場合は、平和がテーマであり、アニメ系と同じ手法の観光ではないが、「周遊して集めること、知っていること」を競い合うニーズはある。たとえば、どれだけ平和について理解しているか、モニターツアーでコンペのようなものを行うことはできると思う。平和記念資料館の〇〇を見たことがあるか、あるいは、知っているかどうかなどを問うクイズ形式でも良いが、何かそういった可能性があれば教えてほしい。

最後に、G7広島サミットのデータをいろいろ取っているのではないかとと思うので、分析が必要。分析することで何か新しい方策が見えてくる。

(事務局)

まず、ピースおこについて、今年度は85店舗が参加している。

エアラインでのPRについては、不定期に航空会社の方が情報交換に来られるので、話をする機会がある。達成できるかどうか分からないが、そういった場で働き掛けをしたいと思う。

大使館に対するPRについては、これまで実施していないが、勉強してみたいと思う。

フォトコンテストについて、受賞作品は広島ピースツーリズムのWEBサイトやInstagramに掲載している。ポスターを作製したらどうかという意見をいただいたので、紙媒体でも作品を掲出するか、どこに掲出するかも含め、勉強してみたいと思う。

また、モニターツアーのコンペについても貴重な意見をいただいたので、研究してみたいと思う。

最後にG7広島サミットのデータについては、広島サミット県民会議が記録誌を作成しているので、WEBサイトで一度内容を御確認いただきたい。希望されるデータがあれば、広島サミット県民会議にお問い合わせいただくか、こちらに言っていたいただければ、こちらから連絡する。

(橋村委員)

WEBサイトのアクセス数やInstagramのフォロワー数が伸びているのは、いろいろな形でバージョンアップされたり、動画を掲載されたりした効果だろう。少しずつではあるが、広まってきているというのは、良いことではないかと思う。フォトコンテストについて、瑠璃委員からも提案があったように、ポスターに残すと自分が撮った写真が何かに掲載され、人に見られる場所にあるということで、次回応募する人が増えてくるのではないかと思う。PR動画は、素晴らしいものだと思う。短くても良いので、県内外の方、たまたま駅を通りかかった人に意識を与えることができる。最後の「私が見ている景色は、世界が見ていた景色だ」というメッセージが良い。

モニターツアーは、インフルエンサーが2名、WEB記者が3名参加したということだったが、参加者がそれぞれの施設を巡ってどんな感想を持たれたのか。これは是非発信すべきであるとか、ここが特に印象的だったとか、そういったことがあれば教えてほしい。

最後に、ピースパズルの体験ツアーがインバウンド向けと修学旅行向けに分かれているが、それぞれの対象に応じて中身を変えたツアーを行ったのか。今後、ピースパズルは、バージョンアップするのか知りたい。

先ほど渡部委員も言われたように、先日オープンしたエディオンピースウイング広島から平和記念公園へのアクセスが良いので、そういったところと連携できないかと思った。

(事務局)

モニターツアーの感想について、OKOSTAでのお好み焼体験では、広島のお好み焼は難易度が高いと思ったが、プロに教えてもらいながら楽しく作ることができたので、また作りたい、みんなに紹介したいといった声があった。その後、めいぷる〜ぷに乗って原爆ドーム前まで移動したところ、海外からの旅行者がたくさん利用されていることに驚かれたとともに、観光に適したバスだという声が聞かれた。また、平和記念資料館では、改めて被爆の悲惨さを痛感されていた。その後ひろしまゲートパークや当時建設中だったサッカースタジアムを見もらったところ、新しくなる広島の街に驚かれ、今後が楽しみだという声が聞かれた。

ピースパズルについては、インバウンド向けと修学旅行生向けに分けてプログラムを実施した。ピースパズルは、周遊イベントに係るプロポーザルの提案として出されたコンテンツである。来年度もプロポーザルにより周遊イベントを実施する予定であるため、具体的な内容については、現時点で未定である。

(中田委員)

皆さんのから貴重な意見をいただき感謝している。私からは、来年度観光政策部が新たに実施する事業に関して少し情報提供したい。被爆80周年記念事業として、長崎市との連携事業を実施する。これま

で、長崎市とは平和の観点では連携があったが、観光の観点からはあまり連携する機会がなかった。令和6年度は、それを実施したいと思っている。詳細はこれから決めていくが、令和6年度から8年度の3年間で事業を完結する。令和6年度は、両市が500万円ずつ負担し、情報発信を行う。例えば、お互いの資料館について紹介することを考えている。広島に来られたインバウンドの方に長崎にも行ってくださいといった取組を実施したいと思っている。令和7年度か令和8年度か未確定であるが、インバウンドの方に来てもらい、平和記念資料館や被爆建物のほかに、復興した街の姿を見てもらう。エディオンピースウイング広島を見てもらい、新しくなる広島城三の丸や広島駅なども紹介したいと考えている。

(渡部委員)

長崎では、新しくサッカー場やバスケットボール場ができており、11月に平和に関するイベントを実施すると聞いた。長崎のサッカー場はすぐそばに大きな船が来ると聞いたので、船の客を広島に連れて来てほしいと思った。長崎には、「さるく」という名前がガイドと街中を歩くというものがあったと思う。そういった長崎と広島が互いに学び合う交流ができれば良いと思う。

(前田委員)

WEBサイトのアクセス数が多くないのではないかと。これはもったいないことだと思う。市の観光のサイトとはっきり連携を図った方が良いのでは。ルートに関して、体験ルートや被爆建物の紹介、そこに何が合ったかということには触れているが、人の存在があまり出てきていないと思う。このあたりの判断は、観光政策部であるとか、広島市であるとか、あるいはこのメンバーであれば良いと思うが、もう少し人の存在が出て良いのではないかと。例えば、レストハウスであれば、被爆時に地下室にいて奇跡的に助かった野村さんの見た景色であるとか、惨状を載せても良いのではないかと。WEBサイトをきれいにまとめているので、非常に良いと思うが、初めて見た人が、ここでたくさんの方が亡くなっているということ認識させるものであっても良いのではないかと。例えばワンクリックで跳んで見られるということがあっても良いのでは。

ところで、被爆者団体にはたくさんの団体から問い合わせがある。海外の映像関係者からもリクエストが入る。こんなことがしたいんだけどという話があったら、ピースツーリズムの趣旨に合致することが大前提だが広島の平和について紹介してもらうことになるのだから観光政策部に対応してもらって、案内など具体的なことは語学対応ができる専門の業者に例えば単価契約で委託し、チャンスを見逃さずに対応するというのはいかがでしょうか。

最後に、中田委員が言われた長崎との連携はとても良いことだと思う。

(原田座長)

30年以上平和行政に携わってきたが、連携がにぶい。市民と行政との間を埋める必要がある。観光政策部に全て任せるというのではなく、もう少し横のプレーができるようにならないといけない。原爆遺跡の史跡の指定があったが、それをどのように活用するのか、はっきりしていないように思う。そういった点を含め、皆さんにこれからの課題を言ってもらったのではないかと。畝崎委員の言われた盛岡の例のように、脚光を浴びると良い所がたくさんあることに気付く。個人的には、南部鉄器の工場や紺屋町かいわい、冷麺やわんこそばといった食文化などがとてもおもしろい。

今後は、広島城の整備が進むことで、平和記念公園との連絡も進むのではないかと。思う。

(瑠璃委員)

青年会議所と共同して広島大学の留学生に平和記念公園の碑めぐりの各ルートを回ってもらい、被爆について理解を深め、伝える側になることを目指す「ピースメッセンジャー」という企画を10月に行った。留学生が12名、企業の若手の方が70名集まった。1時間という限られた時間であったが、平和記念公園内を回って、被爆した町の人の顔が見えるツアーにしようという企画だった。実際に歩くことで、教科書に出てこない、データで学んできたものとは違う感覚を得ることができたと参加者が口々に言っていた。青年会議所の方が、イベントの最後に「ピースメッセンジャー」の参加証明書を参加者に渡した。それをスペイン、インドネシアやマレーシアなど参加者が母国に持ち帰ったところ、反響があったと聞いている。このようにピースツーリズムと関連するいろいろな市民のイベントがあるので、それらと連携し、持続可能なものにしていくことはできないか。そのためにも、ピースツーリズムの、何かブースのような場所でも良いので、拠点があると良い。そこでは通訳やレストランなどの情報にアクセスできるデータベースがあって、ボランティアの方など、誰かがシフトで常駐できると良いと思う。教育的なものを含め、ピースとツーリズムのネットワークを作っていく拠点があれば、持続・継続性が担保されて、取組が発展するのではないかな。

【その他平和に関わる本市の事業についての情報共有】

(渡部委員)

G7広島サミット記念コーナーは広島駅あたりに作ることはできなかったのか。設置予定の場所は、平和記念資料館から人がたくさん出る所なので、人が滞留し危険でもある。G7広島サミット記念コーナーは他の場所の方が良いのではないかな。

また、平和記念資料館のエスカレーターの位置も問題だと思っている。エスカレーターを上がった所で人が立ち止まっている。人が滞留すると危険であるから、入館者が立ち止まらないよう、警備員から注意される。修学旅行生は怒られたように感じるだろう。かわいそうである。平和記念資料館への入口を変えたら良いのではないかな。安心してゆっくり見てもらえるようにしてもらいたい。

(畝崎委員)

いろいろと知恵を絞っていただき大変嬉しく思っている。開館前と開館後の延長により平和記念資料館をじっくり見てもらいたいという、広島市の意欲を感じることができた。チケットを買う列が無くなるというのは、とても良いことだが、私達が最も危惧しているのが、本館のきのこ雲の辺りの混雑である。初めの3か月間、職員を配置して混雑状況を見てほしい。この時間は大変混むとか、そうでもないとか、どれくらいの人がいるのか、定点観測してほしい。許容できる数を見極めてもらいたい。インバウンドの旅行者の書き込みサイトを見ると、平和記念資料館に関しては、混雑に関することへの不満が目につく。館内で快適な見学ができる数を守るのが大切かと思う。

(事務局)

貴重な意見をいただき感謝している。来年度、平和記念資料館の入館者に係る動態調査を実施する。そこで、滞在時間や動線といった混雑状況等を把握し、それらの状況を踏まえて抜本的な検討をすることを考えている。いろいろな御意見はあるかと思うが、この度の混雑対策がどこまで効果があるのか、不透明な部分はあるが、やらざるを得ない状況があるということは御理解いただきたい。やってみてどうなる

か、それから抜本的な検討を行い、次に向かうというのが我々の姿勢である。

(渡部委員)

抜本的な検討をしてもらうのはとても大切でありがたいことだ。併せて通信病院外来棟平和資料館や本川小学校平和資料館、袋町小学校平和資料館など、平和記念資料館の附属展示施設を周遊してもらい、混雑緩和につなげることができるのではないか。そのためには、附属展示施設の充実が急がれるのでないか。どういう建物かというのも分からない。是非そういったことも、抜本的な検討の中に入れてもらいたいと思っている。

(事務局)

渡部委員が御指摘のとおり、役割分担と連携が非常に大切だと思っている。来年度は、8月に追悼平和祈念館で1か月間、被爆資料の展示をする。いろいろと考えられる取組はするようにしている。昨年8月頃は2時間待ちになることがあり、中には、平和記念資料館の入館を諦める人がいた。諦めた人の多くは日本人で、また次に来た時にしようと思われたのではないか。ところが、海外から来られた方は、並んで待たれていたと思う。それらを踏まえた上での対策を取らざるを得ないと思っている。まずは、やってみて、分散が図れるのかどうかを含めて、検討をしたい。

(瑠璃委員)

三点ほど伝えたい。

一つ目は、夏の炎天下で入館の列に並んでいる人々の健康が心配である。並んでいる間は、日陰がなく、水を飲むことができないので、熱中症で倒れる人も出る懸念がある。例えば、景観の問題があるかもしれないが、夏の間だけテントで日陰を作るとか、飲料水の機械を設置するなど。特に今年の夏は暑くなりそうなので心配している。

二つ目は、被爆者の方々からよく聞く話だが、平和記念資料館の北口から出てタクシー乗り場まで周って行くのは、距離が長いので足腰が痛く大変である。南口から出ることができないか。例えば、身体に障害のある方は、特別に南口から出ることができるかどうか、考えてもらいたい。そして、メモリアルホールに車いすで入れると思うが、出入りできる位置やいすを置ける場所が分からないので、バリアフリーの説明があれば良いのではないか。そうすることで、多様性を考える広島市の取組が、より効果的になるのではないか。

最後に、多くの訪問者は、江波のシュモーターハウスになかなか行きにくい。めいぷる〜ぷで、シュモーターハウスや比治山などに行ってくれるピースツーリズムのルートがあれば、本当にありがたいと思う。

(事務局)

夏の行列について御心配いただいているが、夏も含め行例は解消されるものと考えている。

障害のある方への配慮については、南口を団体と障害のある方など配慮が必要な来館者用の入口にする。出口についても状況次第ではあるが、臨機応変に対応できるように考えたい。

シュモーターハウスと平和記念資料館のほか、今後広島市に無償譲渡されることになっている被服支廠の1号館についても、平和学習の施設として活用を図りたい。こういった施設間のアクセスについては、市役所全体で考えたい。

(原田座長)

御存知の方もおられるかもしれないが、現代美術館に行くバスが当初は1時間に2本だったが、現在は1時間に1本しか運行していない。なぜそうなったかという、現代美術館の利用者が少ないため、やはり、現代美術館と平和記念資料館が連携する必要があると思う。以前、現代美術館と平和記念資料館を無料バスで結ぶということを2年間やってみたが、予算的な問題などから継続できなかった。

また、めいぷる～ぷの乗り場が平和大通り沿いにあるが、非常に混雑する場所にあるので、めいぷる～ぷを平和記念公園内のロータリーの中に入れることはできないか、議論したことがあるが、バスを回転させるスペースがないので難しいという結論になった。これまでこういった議論を積み重ねてきた。この度いただいた意見を踏まえて、前向きな方向付けをしていく必要があるのではないか。被爆継承担当課長が言われたように、混雑解消が前提ではあるが、もし、夏季の段階で行列ができる可能性があるのであれば、何か用意しないとイケない。平和記念資料館の下は、ピロティになっているので、そこに給水器を置いてはどうか。そういった対策をあらかじめ持っておいた方が良いのではないかと。

(畷崎委員)

現代美術館は広島之宝だと思っている。ところが今、インバウンドの方にほとんど認識されていないので、非常にもったいないと思う。そして入館者数が少ないために、めいぷる～ぷの便数が減ってしまった。現代美術館は、草間彌生さんやイッセイ・ミヤケさんの貴重な作品を貯蔵しているので、常設展示することができないか。

(原田座長)

ピースツーリズム推進懇談会を始めて1年目に市長に対して、広い意味での平和を発信したいと、平和と文化の融合について提案したが、残念ながら、美術館は美術館、資料館は資料館という形であまり連携できていない。財団が違うという問題はあるが、しっかりと連携する必要があると改めて思っている。

広島大学旧理学部1号館は、東広島に移転して30年経っている。最初の頃に自転車を使って各コースを周ったときに、どうして放置しているのかという意見があった。被爆建造物の保存制度は、1993年に作った。その時に課題として挙げたのが、広島大学旧理学部1号館と被服支廠である。被爆建造物を残すことについていろいろな議論をしてきたが、肝心のどういった形で運営していくのかといった議論が見えてこない。

被服支廠を残す活動を行ってきた団体は、今日たる募金をやっている。お金を自主的に集めて、県に送ろうではないかという思いで進めている。何に使ったか分からない一般寄附ではなく、指定寄附という形で寄附できないかと思っている。広島市には、原爆ドームの基金があるが、原爆ドームの保存活用にしか使えない。

被爆建造物の保存については、やっと動き出したところである。これから1歩でも前が出るために、ピースツーリズム推進懇談会委員の皆様の御尽力、御協力をお願いしたい。

【令和5年度第1回ピースツーリズム推進懇談会の意見のとりまとめについて事務局から説明】

(瑠璃委員)

実は、一つ欲しいものがある。以前、鹿児島に行ったときに、一日周遊券を買った。簡単な路線と見どころの地図のような物が付いていた。周遊券だけだと割高に感じたが、地図を見て、「これで西郷さんな

ど、見どころを一気に網羅できる」と思うとつい買ってしまった。マドリードなど海外でも、コンパクトで路線上の見どころが一目で分かる地図と一日券をセットで売っていた。広島にはそういった取組がないのだろうか。

(原田座長)

現時点では、瑠璃委員の言われるような取組については、聞いていない。以前、現代美術館と平和記念資料館、広島城の3館共通のチケットを作って相互に協力しようという案があったが、現代美術館が改修のため休館したこともあり、実現していない。私も旅が好きで全国を周っており、様々な周遊チケットがあることを知っている。今から実施するのであれば、めいぷる〜ぷ(中国JRバス)と調整する必要がある。

(渡部委員)

街中には、エディオンピースウイング広島をはじめ、いろいろな施設ができていますが、あの辺は緑が非常に美しい場所で、子どもたちが安心して遊べるスペースだった。子どもが安心して遊べるスペースを確保するため、これ以上緑が無くならないように努力してもらいたい。

(原田座長)

エディオンピースウイング広島は、試合がない時の活用についても、周辺の活性化と併せてしっかり考えないといけない。市の行政の中で連携して進めてもらいたい。

(渡部委員)

修学旅行生が、エディオンピースウイング広島でお弁当を食べたら喜ぶのではないかと。

(橋村委員)

エディオンピースウイング広島は屋根が付いているので、平和学習をやったら良いのではないかと。芝は使えないが、暑いときに修学旅行生に座ってもらい、大型スクリーンなども活用しながら平和学習ができれば良い。

(事務局)

エディオンピースウイング広島の利用について、サンフレッチェ広島と調整し、1万4千席は修学旅行生の昼食会場として利用できることになっている。スタジアム内には、様々な部屋があるので、そういったところも利用できる。修学旅行誘致の際に配布するガイドブックにも掲載し、PRしているところである。

(原田座長)

本日、様々な御意見をいただいたと思うが、事務局だけで抱えるのではなく、他の部署とも連携して進めてほしい。また、市民と来訪者との拠点施設の整備も課題として残っている。今後も一つ一つ課題に対応してもらいたい。